



企業と連携した日本語教育の 体制整備の展開

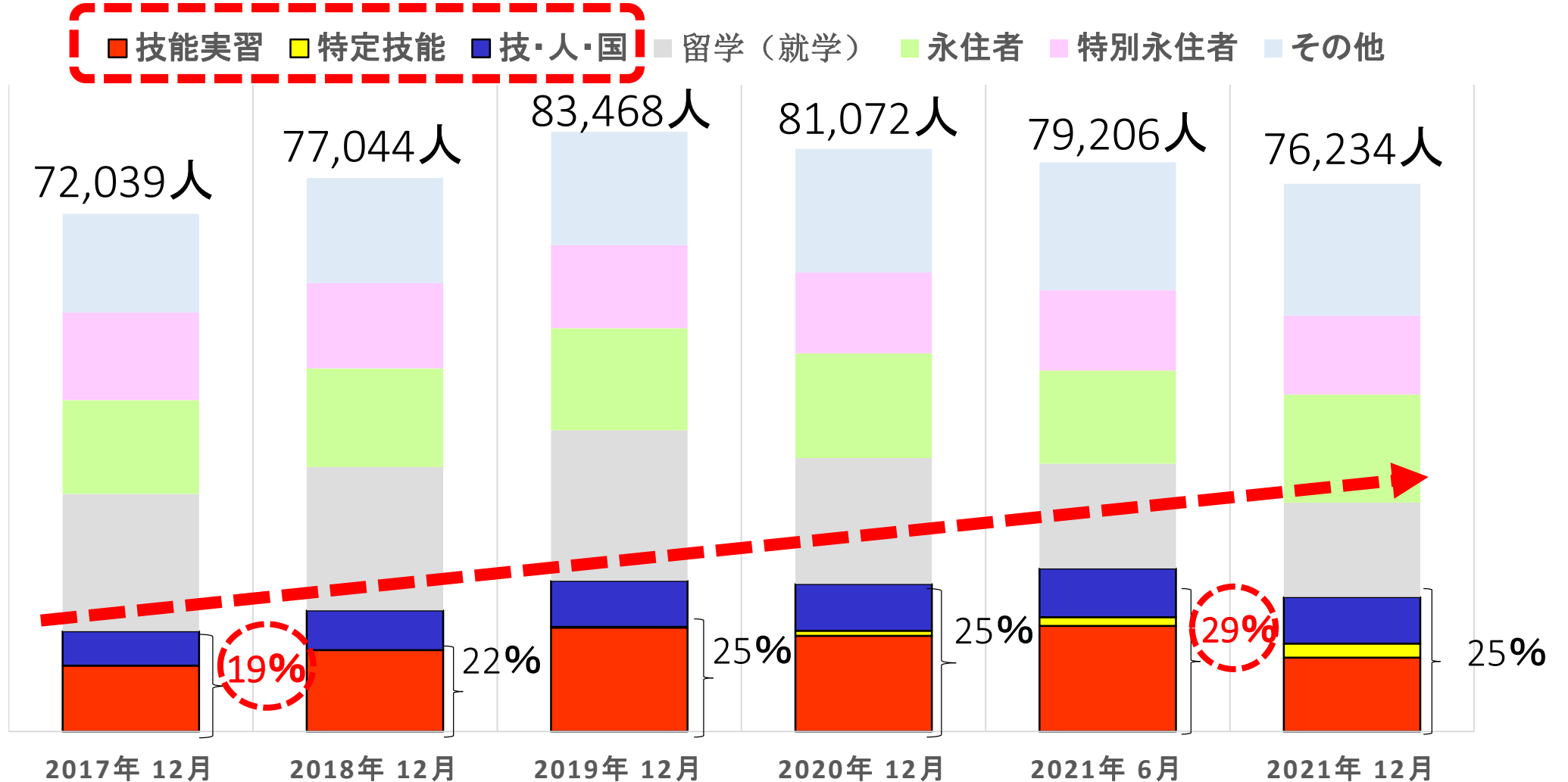
令和4年12月26日(月)

令和4年度「都道府県・市区町村等日本語教育担当者研修」

福岡県企画・地域振興部
国際政策課

外国人の状況

福岡県内の在住外国人人数 推移



※在留外国人統計(法務省)より作成

課題・取組前の現状

日本語教育に関する課題

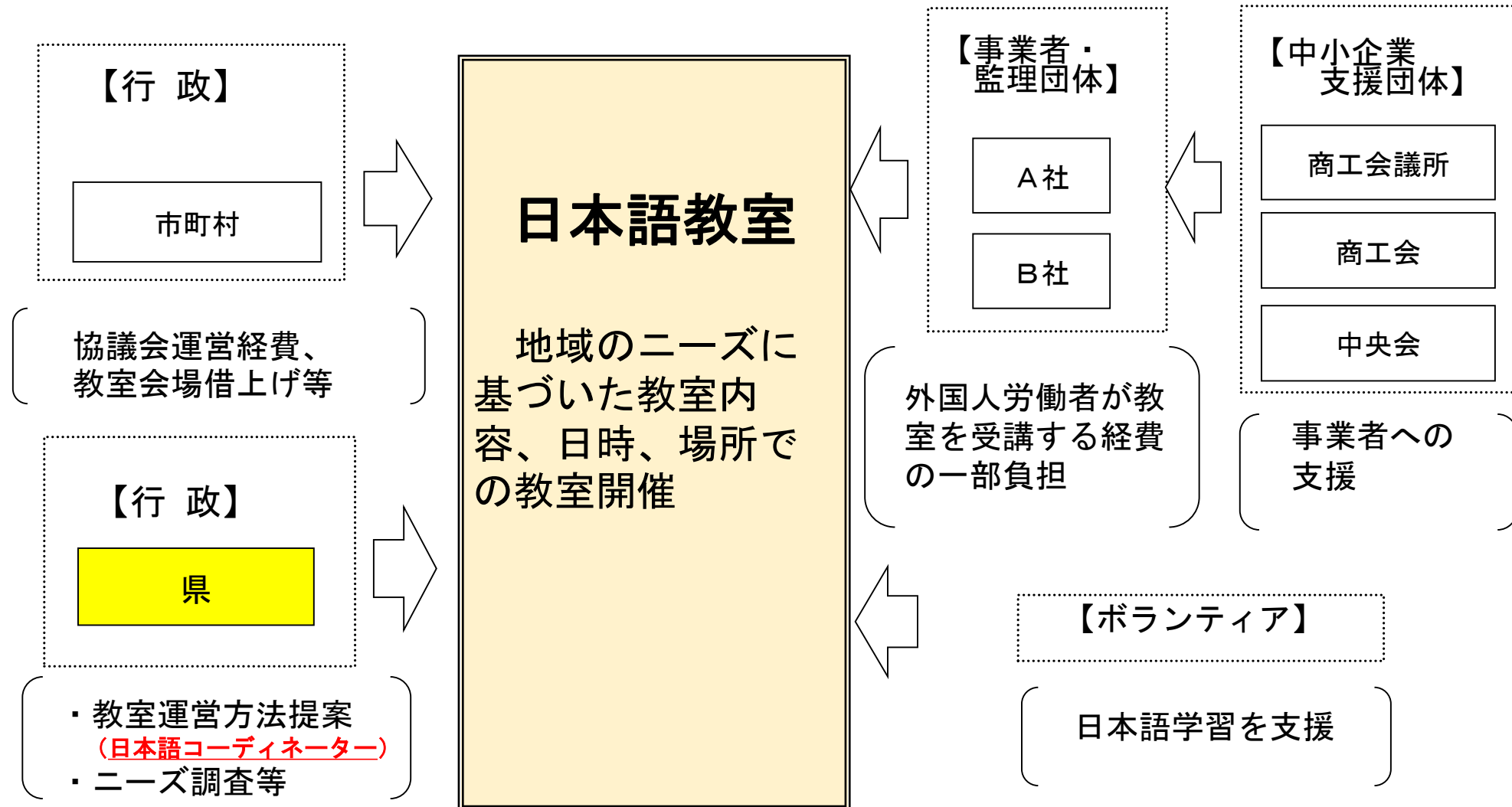
<p>外国人材 ※技能実習生や留学生を中心に、日本語学習への関心は高い</p>	<ul style="list-style-type: none">・身近な場所や通える時間帯で日本語が学べる環境が無い・日本語教室の費用が払えない
<p>ボランティア</p>	<ul style="list-style-type: none">・日本語教室の運営にかかる資金体制が脆弱・生徒が集まらない(開催時間のミスマッチ)
<p>企業</p>	<ul style="list-style-type: none">・雇用する外国人材の日本語能力の向上を図りたいが、日本語教育を企業単独で行うことは困難

事業の目的・目標

- ◆県内在住の外国人材が身近な場所で日本語教育を受けられる環境を整備するため、地域における日本語教室を安定的に運営するモデルを構築し、県内他地域への横展開を図る。
- ◆モデル市町村は公募で選定

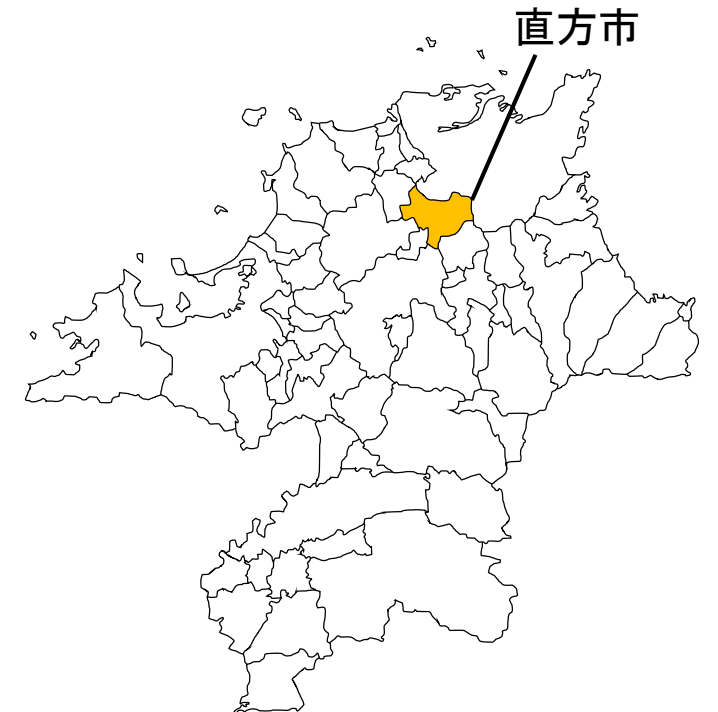
実施体制

体制は、モデル市町村ごとに異なる



モデル市町村(直方市)

後ほど直方市より説明



モデル市町村(古賀市)

○応募の背景(課題認識)

- ・在住外国人の半数を占める技能実習生は、来日前に一定の日本語を学んできているものの、学習時間が十分でないことから日常生活において困ることがある、という企業や自治会からの意見があった。
- ・既存の日本語教室は、日本語講師の都合により日曜日の午前中に開催しており、働く技能実習生が参加しやすい日時になっていない。
- ・既存の日本語教室は文法を中心としたスクール形式の授業内容になっており、地域のルール等 日常生活において効率的に活用できる日本語の学びに繋がっていない。

○目指す目標

- ・外国人住民が今よりも円滑に日本語でコミュニケーションを取ることができ、労働者としてのみならず、地域の構成員(生活者)として自立し、安心して生活できるようなまちになること。



モデル市町村(苅田町)

○応募の背景(課題認識)

- ・在住外国人が増えており、在住外国人比率(令和3年9月時点)は福岡県内市町村で2位の2.64%。うち、技能実習生が50%以上を占める。
- ・日本語が苦手な実習生は「どうせ日本語は分からない」と日本人社員とのコミュニケーションを取らないケースもあり、実習生が孤立しないよう特に配慮しているという企業の声もある。
- ・日本語教室の運営については、日本語講師やボランティアの高齢化が進んでおり、今後は、講師人材の確保及び教室の継続が困難となることも予測される。

○目指す目標

- ・外国人から見て、職場・学校、自宅、それ以外の「第3の居場所」となるような日本語教室を目指し、外国人住民の孤立化を防ぐ。
- ・外国人労働者への日本語教育支援を通じ、外国人の地域定着及び地域の主要産業である製造業における外国人材確保を支援する。



課題（事業を進める上での課題）

◆日本語教育に係るマンパワー及び財源が不足
（市町村が直接申請可能な交付金、地方交付税措置）

◆日本語講師等の質を測る指標が不足

日本語講師及びボランティアの日本語を教える能力は個人差があり、「学習者との相性」や「コミュニケーションスキル」も学習者の日本語習熟度に影響を与えるが、それを測る物差しが不足。

◆「日本語教育の参照枠」は、定性的な習熟度を示しているが、企業等の第三者が日本語レベルを判断するには分かりにくく、事業への反映が困難。

課題（企業と連携した日本語教育）

- ◆ 外国人材に対する日本語教育の必要性については、企業ごとに考え方が異なる。

（日本語教育に係る合意形成ハードルの高さ）

 **企業等の責務のさらなる明確化が必要**

- ◆ 日本語の習得には、学習者の自学も必要。
（働きながら学習するハードルの高さ）

地元企業と連携した 日本語教室の開講

令和4年度「都道府県・市区町村等日本語教育担当者研修」

令和4年12月 福岡県直方市



直方市の紹介



あなたの「お!」、見つけに来ませんか?

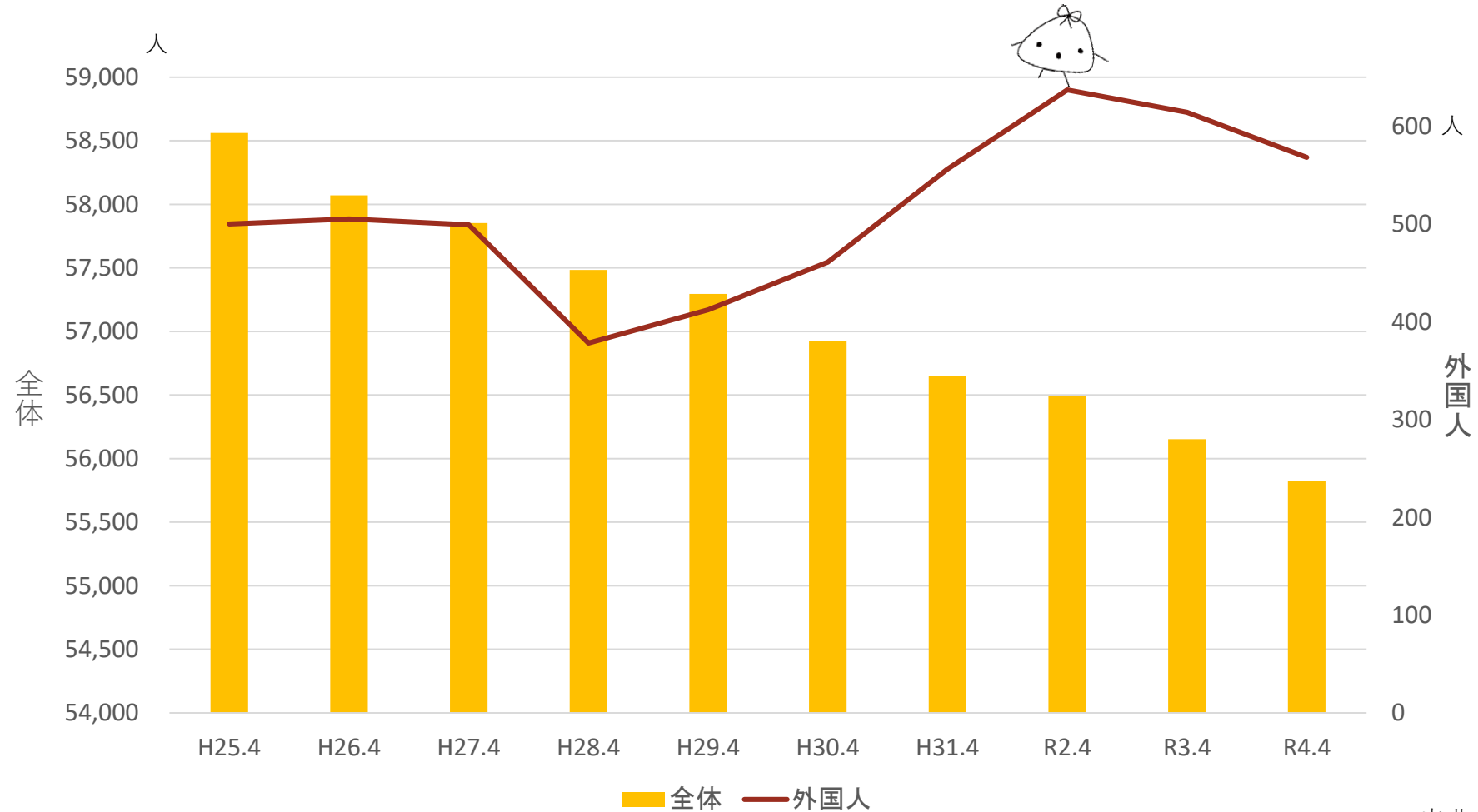
福岡県の北部に位置し自然豊かな地域

人口：55,857人（2022年3月末時点）

- ・交通：福岡市、北九州市から1時間圏内
- ・地理：市中心部に九州主要河川で2番目の長さの遠賀川が流れる
市東部には平均600m級の山々が連なる（北九州国定公園）
- ・主な産業：製造業、医療・福祉、卸売・小売業
- ・特徴：旧長崎街道沿いに連なる歴史ある商店街 石炭全盛期に繁栄



外国人の状況（人口推移）

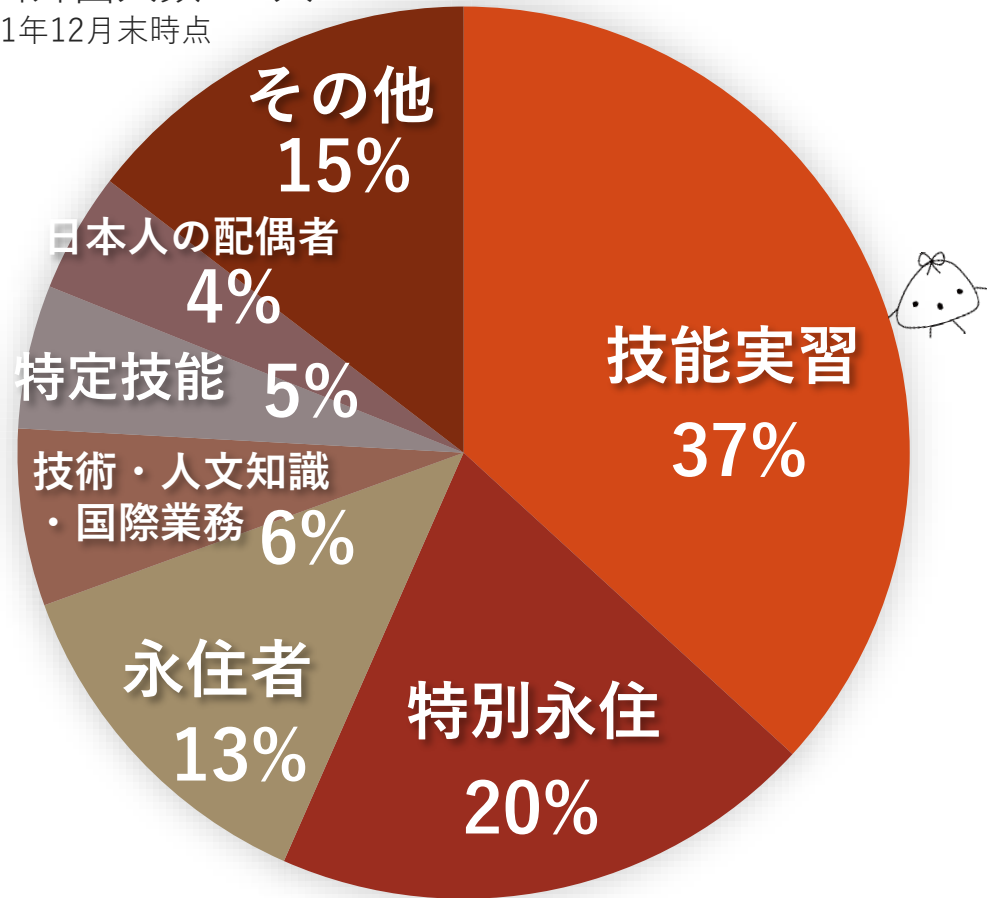


出典：直方市住民基本台帳

外国人の状況（在留資格別）

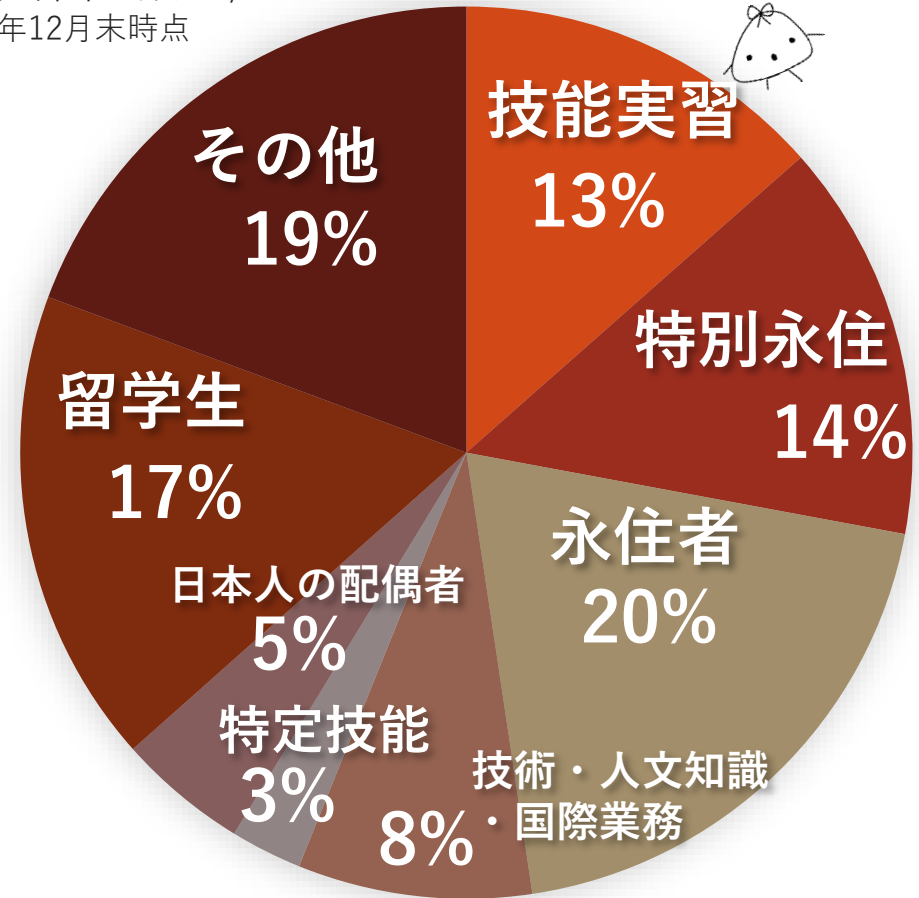
直方市

在留外国人人数576人
2021年12月末時点



福岡県

在留外国人人数76,234人
2021年12月末時点

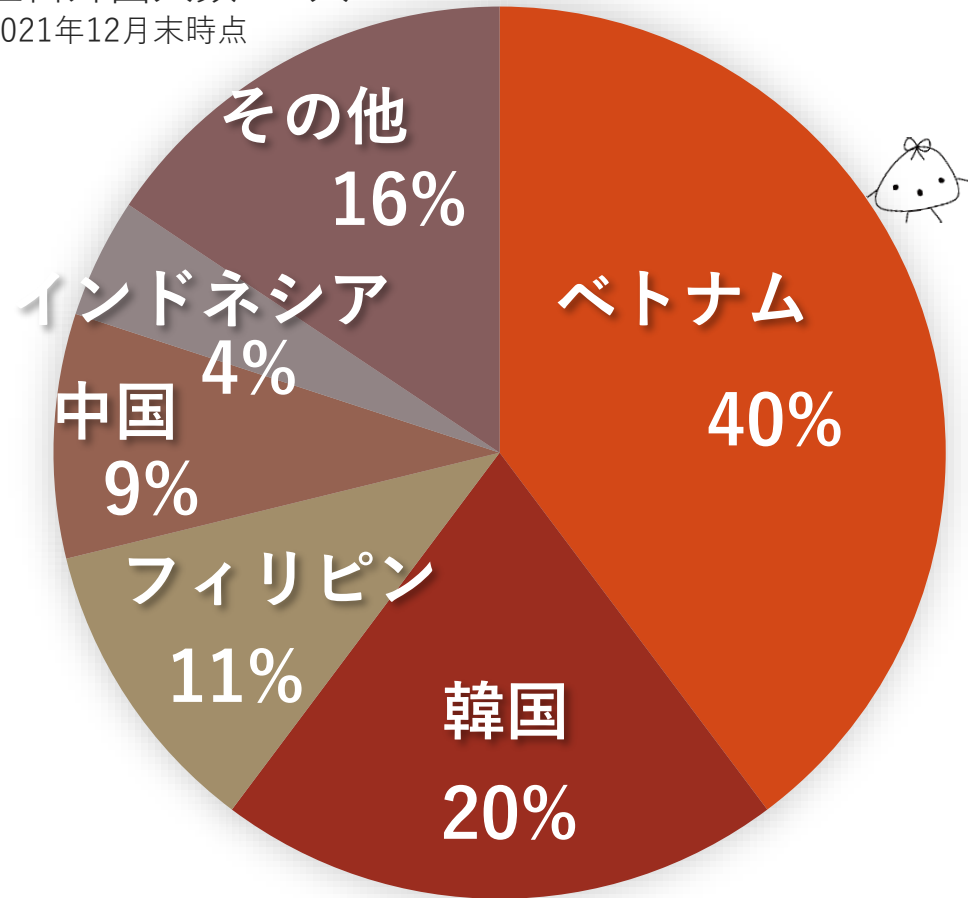


出典：出入国在留管理庁 在留外国人統計表

外国人の状況（国籍別）

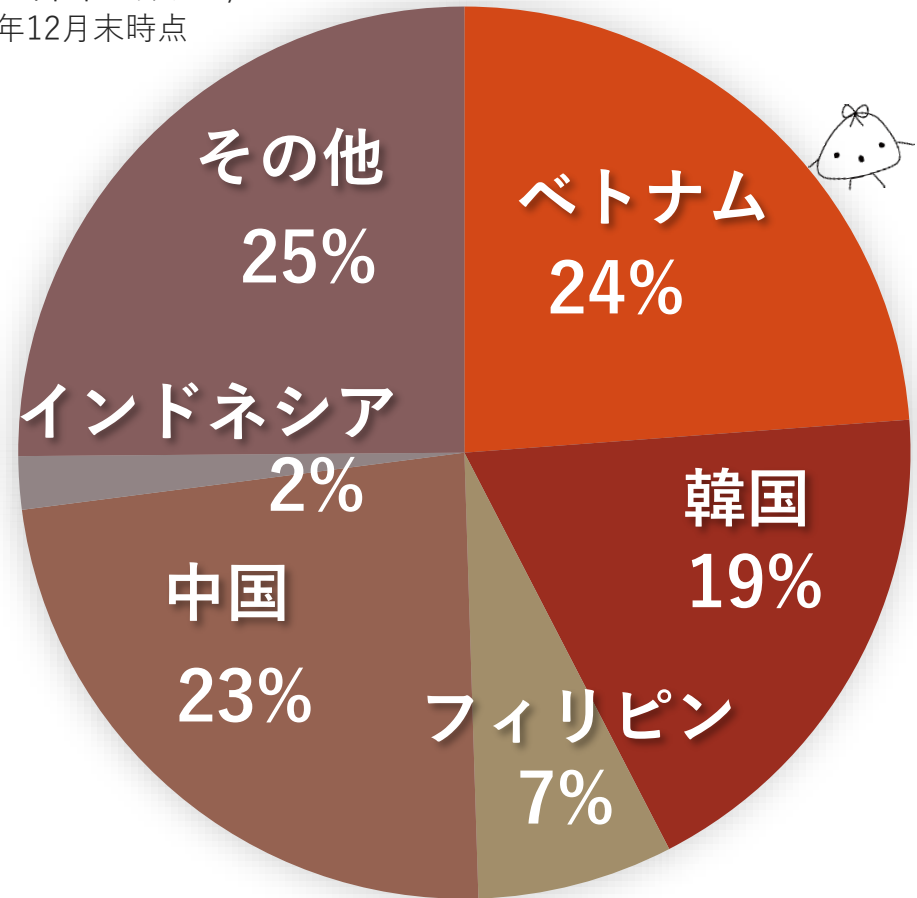
直方市

在留外国人人数576人
2021年12月末時点



福岡県

在留外国人人数76,234人
2021年12月末時点



出典：出入国在留管理庁 在留外国人統計表

現状・背景



外国人居住者は、増加傾向

- ✓ 東南アジアからの技能実習生（製造業・建設業）が大半



本市の労働力人口は、今後5～15年で大きく減少する見込み

- ✓ 団塊2世の退職、特に製造業では当該世代の労働力比率大
- ✓ 市内就業率を50%とすると、市内企業に勤務する労働者の今後5年間の退職年齢（60歳）到達者は、約266人/年（製造業約65人/年）



若年層（若者）の地元就職率が低い

- ✓ 外国人労働者による労働力確保は、事業継続上の喫緊の課題

目的・目標

外国人従業員を雇用する市内事業者の後方支援

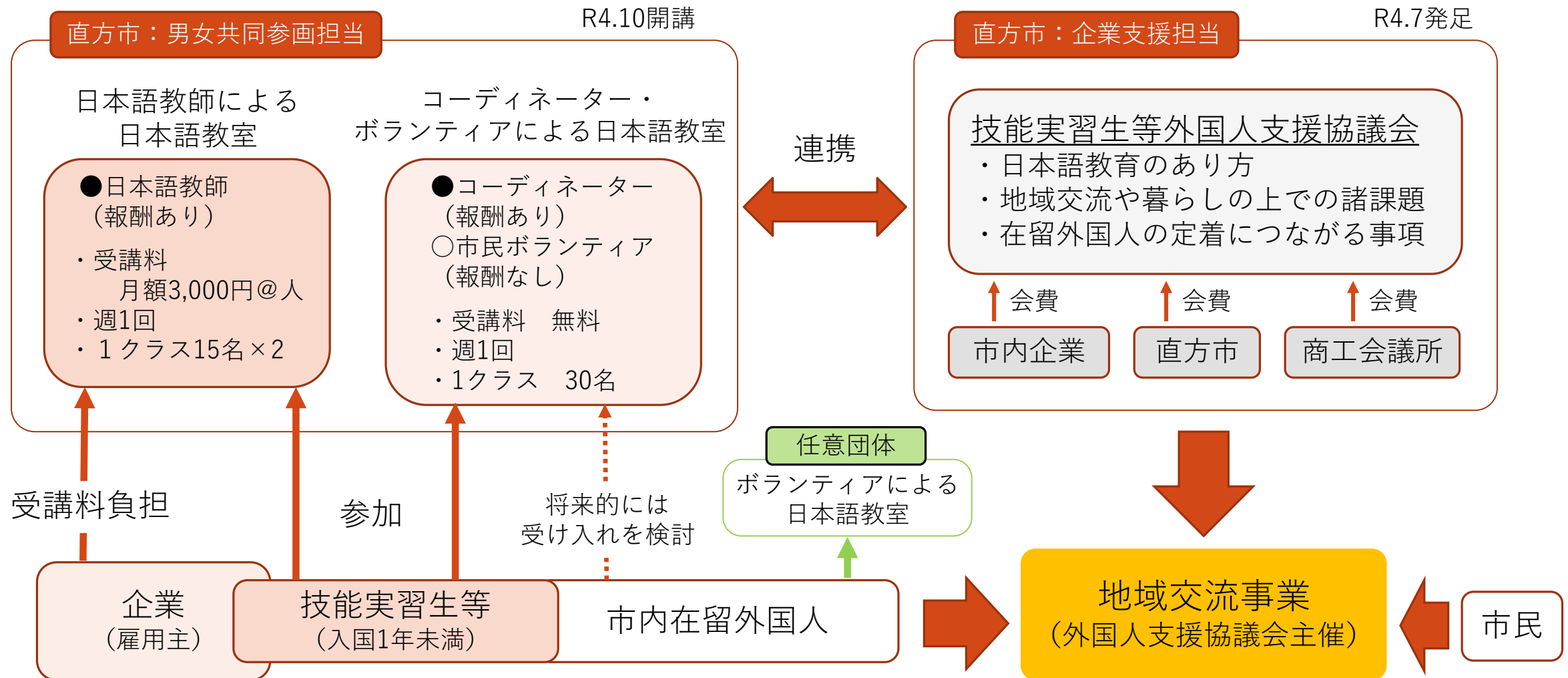
外国人労働者の定着支援を通して、市内事業者の事業継続支援を行う

※今回は市内事業者が雇用する技能実習生を対象とする

目標


- ① **語学スキル習得の支援** 日本語教師による日本語教室の開催
効果 ⇒ コミュニケーション能力不足による離職予防
- ② **文化・生活様式理解につながる支援** 市民ボランティア主体の教室の開催
効果 ⇒ 地域文化を理解することによるトラブル等予防
- ③ **地域交流事業の実施**
効果 ⇒ 就労の場としての直方市の魅力向上


事業内容



日本語教師による日本語教室

教室数：2クラス（1クラス 定員15名）

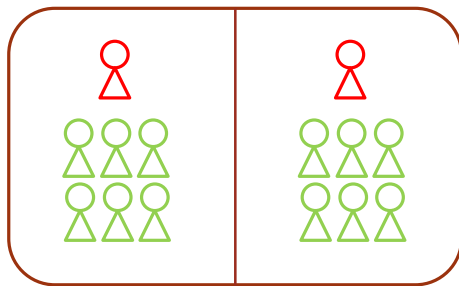
教師 ：2名（報酬あり）

学習者 ：22名（R4.12時点）

開催頻度：週1回90分（19:30～21:00）

受講料：3千円@人（雇用主負担）

教材費：3千円程度@人（雇用主負担）





- ✓ 金曜日に同じ施設内で実施
（2クラス合同での実施も想定）
- ✓ 教材に沿った授業を実施
- ✓ 6か月を1ターム
- ✓ 3年でB1を目指すための動機付け




コーディネーター・ボランティアによる日本語教室

教室数：1クラス（定員30名）

コーディネーター ：1名（報酬あり）

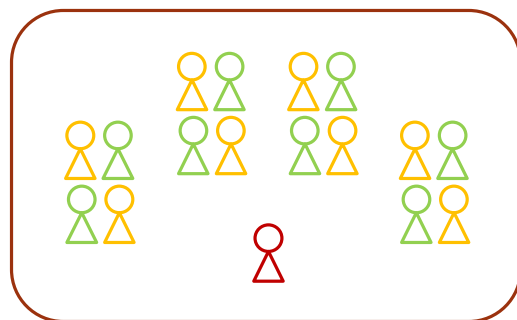
ボランティア ：12名（登録制、報酬なし）

※ボランティア養成講座受講後に登録

学習者 ：22名（日本語教室参加者のみ）

開催頻度：週1回 120分（19:00～21:00）

受講料：無料



- ✓ 火曜日に2クラス合同で実施
- ✓ 日本語教室の補講
- ✓ 日本の文化を楽しく学ぶ
 - 和服の試着体験
 - おむすび作り体験
 - 年賀状作り etc.



課題



日本語教師による日本語教室の受け入れ条件の拡大

- ✓ 現在入国1年未満の技能実習生のみを受け入れ
- ✓ 場所と日本語教師の確保、事務局事務の負担



コーディネーター・ボランティアによる日本語教室への参加条件の拡大

- ✓ 市内在住の外国人が誰でも参加できる場へ



市民ボランティアの定着

- ✓ 定期的な募集と養成講座の開催
- ✓ 今後の教室拡大への対応

「お」のつく
のおか汁
直方
NOGATA
あなたの「お!」、見つけに来ませんか?

ご清聴ありがとうございました

